

<p>1. 主催者・共催者名 一般社団法人海外環境協力センター（OECC）</p>
<p>2. タイトル NAMA ガイドブック - アジアと世界の経験（Guidebook on NAMA-based experiences in Asia and the World）</p>
<p>3. 目的・概要 本サイドイベントでは、アジア各国の専門家により作成された NAMA ガイドブックのドラフト版が公開された。NAMA ガイドブック公開に当たり、執筆を担当した NIES、IGES、カンボジア環境省、WRI 等より、NAMA ガイドブックの概要、NAMAs 策定のアプローチ、アジア・中南米における NAMAs 策定の経験に関して発表がなされ、意見交換が行われた。</p>
<p>4. アジェンダ 開会あいさつ 環境省川又孝太郎</p> <p>NAMA ガイドブックの紹介 司会: OECC 小河原 二郎</p> <p>日本のイニシアティブと NAMA ガイドブックの紹介 国立環境研究所 藤野純一</p> <p>低炭素社会と持続可能な開発のツールとしての NAMAs 地球環境戦略研究機関(IGES) 田村堅太郎</p> <p>NAMA ガイドブックへのカンボジアの貢献 カンボジア環境省. Sum Thy</p> <p>LAC perspectives on Transport NAMA - WRI's experiences in Mexico Mr. Benoit Lefevre, World Resources Institute (WRI)</p> <p>NAMA にかかる共有のビジョン:ラテンアメリカとアジアからの実例 Center for Clean Air Policy (CCAP)Ms. Julie Cerqueira,</p> <p>NAMA と GHG インベントリ -第 11 回 WGIA の成果 a 国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス 小野貴子</p>
<p>5. 発表・議事の概要</p> <p>1. 藤野純一（NIES）：「NAMA ガイドブックと日本のイニシアティブ」 NAMA ガイドブックは、日本がアジア各国で実施している NAMAs 策定支援の取組を通して得られた知見の共有を目的として、各国と協働して作成された。ガイドブックには NAMAs の要素や策定のアプローチ、アジアや世界における事例等を掲載している。</p> <p>2. 田村堅太郎（IGES）：「低炭素成長・持続可能な開発のツールとしての NAMAs」 低炭素成長は、開発途上国に対してカーボン・ロックインや経済成長が停滞する「中</p>

所得国の罣」を回避する重要な概念である。NAMAs は、持続可能な開発と低炭素成長を結合するためのツールになり得る。NAMAs の策定には 2つのアプローチがある。1 つ目は長期的に持続可能な開発・低炭素成長の戦略の中に NAMAs を位置付けるトップダウンのアプローチである。2 つ目は短期的に既存の政策や施策を NAMAs として実施するボトムアップのアプローチである。開発途上国は NAMAs、CDM、REDD+を活用して持続可能な開発の広範な目的に対応することができる。NAMAs を一時的イベントとして捉えるのではなく、継続的なツールとして捉えることが重要である。

3. Sum Thy (カンボジア環境省) : 「カンボジアの経験から得られた教訓」

カンボジアは小国であるが、多くの化石燃料を輸入している。エネルギーの約 95%が化石燃料由来であり、約 3%が水力発電、約 2%が他の再生可能エネルギー由来である。カンボジアは GHG 排出削減の義務はないが、UNFCCC の原則に基づいて気候変動対策に取り組んでいる。2013 年 10 月 31 日に首相により、カンボジア気候変動戦略計画 (CCCSP) が承認された。これは緩和策・適応策を実施するための鍵となる戦略であり、緩和策に関しては、市場メカニズムの活用を推進する計画である。

カンボジアは、日本と協力して NAMAs の策定を行っている。農村地域では薪・木炭等の非再生可能バイオマスに依存しているため、昨年、ナショナル・バイオダイジェスター・プログラム (NBP) を対象として、パイロット NAMAs を策定した。今年は運輸交通・エネルギー分野での NAMAs 策定に取り組んでいる。また、NBP の UNFCCC へのサブミッションや NAMA ワーキング・グループの公式化に向けた議論を行っている。

4. Benoit Lefevre (WRI) : 「中南米における運輸交通分野の NAMA の展望 - メキシコの経験」

メキシコでは 2005 年に気候変動対策省間委員会 (CICC) が設立され、2012 年にメキシコ気候変動基本法が施行された。これにより首相が変わっても気候変動対策が継続される体制が整っている。WRI はメキシコにおけるエコドライブ推進、公共交通の最適化 (ルート改善、車両入替)、都市交通システムの改善 (大量輸送交通機関、代替燃料、交通需要管理等) の 3 つの NAMAs に関与している。NAMAs の準備に際して、メキシコの低炭素成長に関する調査を行い、環境配慮、経済益、社会益、国の能力、国家計画との整合性の 5 つの評価基準を設定した。また、シンプルな MRV の方法論を提案した。詳細な MRV はドナーの要求事項に基づいて設計されるべきである。また、大気汚染の改善等、NAMAs によるコベネフィットもあわせて MRV される必要がある。

5. Julie Cerqueira (CCAP) : 「NAMAs のシェアドビジョン - 中南米・アジアの経験」

NAMAs の目標を達成するために、4 つの基本原則が考えられる。まず、ホスト国主導であり、GHG 排出削減と持続可能な開発の両方に貢献すること、セクター横断的で国全体にわたり、かつ地域の固有性を考慮していることである。また、NAMAs は排出削減の取組における課題に対処する政策・資金メカニズムである必要がある。さらに、NAMAs に対する国際的な資金支援は、民間資金を動員する呼び水となるべきである。

CCAP はコロンビアにおいて廃棄物分野の NAMAs 策定を支援している。この NAMAs は廃棄物処理手数料の改定、NAMA エクイティ・ファンドの設立、非公式のウェイストピッカーの公式化等の取組等がある。これらにより、リサイクルやコンポスト、RDF（ごみ固形化燃料）等の技術への民間投資を促進している。また、CCAP はインドネシア、パキスタン、フィリピン、ベトナム、タイ等の NAMAs 策定に関与している。

6. 小野貴子（NIES-GIO）：「NAMAs と GHG インベントリの関係 - 第 11 回アジア GHG インベントリワークショップの成果」

2013 年 7 月に日本でアジアの GHG インベントリに関するワークショップを開催した。本ワークショップにおいて、GHG インベントリは各国で NAMAs を策定・実施するための基本的な情報源であること、GHG インベントリの専門家と NAMAs の計画立案者の連携は双方にとって効果的であること等が確認された。

6. 会場写真

